

“つながり”を意識した授業づくり

学籍番号 199357

氏名 山崎 朱理

主指導教員 糸井川 孝之

1. 背景

実習を進めていく中で、生徒に対して行われた学期末アンケートを見る機会があった。そこで、「クラスメイトが泣いていました。これは自分に関係のあることだと思いますか?」という質問に対して、「自分には関係のないことである」と答えている数名の生徒がいた。ここでの“自分に関係のないこと”とは、自分が物理的に関わっていないという意味であるのか、本当に興味がないことを表しているのか、疑問に思った。そして、このような体験から、中学生の子どもたちは、自分とまわりとのつながりを意識することがあまりできていないのではないかと感じ、社会科における社会的事象を「身近なこととして捉える」力が弱いのではないかと考えた。そこで、社会科の授業の中で意識されている「どのように社会との繋がりを意識させるのか」または、「どのように社会的事象を身近なこととして捉えるのか」に注目した。

また、身近に捉えるためには、社会的事象の本質である概念や事象間の関係について理解しておかなければならない。つまり、子どもたちが既有知識と新しく習う知識を結び付ける必要がある。授業の中で、ただ知識を習得するだけではなく、今まで習ったこととの結びつきや、自分の生活にどのように関わっているのか、また生活にどのように活かすことができるのか、を考えることで子どもたちに、様々な社会的事象を身近に捉える基盤ができるのではないかと考えた。そして研究を進めると、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」学びである、と答申でも説明されているように「深い学び」の考え方とつながりがあることに気づいた。そして、この深い学びを通して、子どもたちに社会とのつながりだけではなく、友達や家族、教師などさまざまな“つながり”を意識させたいと考えた。

2. 深い学びに関する先行研究

2.1 定義

様々な先行研究をもとに本研究では、深い学びとは「生徒自身が新しく習う知識と既有知識を関連させて考えることができること。また、さまざまなものごととの関係に気づき、課題に対してさまざまな角度・立場から捉えることができ、それに対する意見をも持つことができることである」と考える。

2. 2研究の方法

授業は、以下の3つ流れを意識して作成した。①既有知識と新しく習う知識など、ものごとの“つながり”を意識する。②知識を組み合わせ、活用する。③社会的事象を理解する(自分の意見をもてる)。この3つができるようになれば、自分ごととして捉えることができると考えた。具体的には、授業の中で、新しく習うことと、今まで学習してきたことや他教科・生徒の日常生活での経験などに結び付けたり、さまざまな資料を提示し、資料ごとの関連やワークごとの関連を意識させたり、自分の意見を踏まえて、授業の内容を論理的に書かせるなどのことを行った。

3. 実践研究

授業は2年間で合わせて72時間、具体的に4つのポイントを意識して行った。

- 1、授業内容の関連性を意識させるためのワークの作成
- 2、資料読み取りでは、資料の比較や関連付けを意識させることで内容の理解を深める
- 3、授業中は教師と生徒の対話を意識し、生徒から答えや意見を聞き出す
- 4、宿題として授業の振り返りをつけ、内容を具体的にまとめさせる

4. 総合考察

“考えさせる授業”を行っていた筆者にとって、資料読み取りは毎回の授業の1番悩ましいポイントであった。実際に授業を行ってみると、どのような資料を提示するのかによって、生徒の思考の幅や、理解度に大きくかわってくるのが分かった。また、資料によって既習知識とのつながりを意識させたい場合など、どの資料が1番有効的なのかということは、授業を行ってみないと分からないということに気づいた。授業の中で行われる生徒と教師の対話については、たくさんの意見を生徒から聞き出し、そこから派生させて、「聞き返す発問」を行うことで、生徒の思考を深めることに繋がることが分かった。今後の課題は、どのような発問をどのように組み合わせると生徒の思考がより深まるのかについてである。また今回は、既有知識と新しく習う知識を結び付けることができているのか、授業における理解が深まっているのか(ものごとの因果関係等)についての評価を行う上で、記述課題を参考にした。この記述について、3つの基準で評価を行ったが、実際に書けるようになる工夫は直接的には行っていない。しかし、生徒にどのように書くのか具体的な説明を行うことや、評価基準を細かくし、何をどのように書くべきなのかを明確にすることで、論理的に書ける生徒が増えるのではないかと考えている。